

事務事業評価シート

(平成 25 年度実施事業)

事務事業名	町名由来に関する事業			事業コード	2834
所属コード	051000	課等名	環境企画課	係名	環境保全係
課長名	櫻 正伸	担当者名	熊谷 正弘	内線番号	8418
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	共に生き未来を創る教育・文化	コード	4
	施策	歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	コード	5
	基本事業	歴史的文化遺産の保護と活用	コード	1
予算費目名	一般会計 4 款 1 項 4 目 保存建造物等管理整備事業 (002-03)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	昭和 51 年度	
根拠法令等	「盛岡市環境基本条例」「盛岡市自然環境及び歴史的環境保全条例」			

(2) 事務事業の概要

旧町名由来板の維持管理。

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

昭和 37 年に「住居表示に関する法律」が施行され、盛岡市においても旧市街地の古い町名の多くが、新しい町名に変わったことから、市民や市議会の要望もあり昭和 52、53 年度の 2 ヶ年にわたり旧町名の保存を目的に「城下盛岡町割保存事業」を実施。専門家へ委託して調査した結果を基に、昭和 53 年度に市内 27 箇所、50 町名分の由来等を記した説明文を「旧町名由来板」として設置したことが当事業のきっかけとなっている。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

町名由来板設置後 30 年近くが経過し、市民から説明文の誤りも指摘されていることから、平成 20 年度に専門家へ依頼して見直しを行い、平成 21 年度に、この監修作業を行い、「城下盛岡町名由来記」の改訂版(冊子)を作成した。今後は年次計画で町名由来板 27 基の更新を図ることとしている。

また、旧町名の由来は、地域の歴史を理解する上で重要な要素となっており、また今後のまちづくりの視点から、市民及び議会などにおいて注目されている。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

市域の歴史的環境

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 見込み
A 町名由来板の管理数	基	27	27	27	27	27
B						
C						

(3) 25年度に実施した主な活動・手順

- ・城下盛岡町名由来板の維持管理
- ・城下盛岡町名由来板の修繕及び更新

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 補修・更新した町名由来板の数	基	3	3	3	3	3
B						
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

旧町名の由来は, 地域の歴史を理解する上で重要であり, 後世に引き継ぐべきものであることから, それを市民に周知を図る。

(6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 町名由来板更新率	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	33	44	56	56	67
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	202	202	202	289
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	202	202	202	289
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	180	180	180	180
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	720	720	720	720
計	トータルコスト A+B	千円	922	922	922	1,009
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：旧町名由来板の整備・設置は市民に広く城下町盛岡を周知する方法として有効であり、地域の貴重な歴史を後世に伝えることにつながるものである。

② 市の関与の妥当性

盛岡市の歴史的環境は盛岡特有の財産であり、これを守り後世に伝えることは市の役割であるため、妥当である。

③ 対象の妥当性

城下町盛岡の由来を周知するため由来板を設置するものなので、現状で妥当である。

④ 廃止・休止の影響

旧町名の由来は、地域の歴史を理解する上で重要な要素となっており、また今後のまちづくりの視点から、市民及び議会などにおいて注目されており、市の果たす役割は大きいため、休廃止の影響がある。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

町名由来板設置後 30 年近くが経過し、市民から説明文の誤りも指摘されたため、平成 21 年度に説明文の改訂を行なったところであるが、財政上、年間 3 基の更新予定となっており、できるだけ短期間で更新を完了することが課題となっている。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

事業費については、年次計画で町名由来板 27 基を更新する予定であるが、財政上、年度毎に 3 基更新するのが限界であり、これ以上の事業費の削減はできない。

また、人件費についても業務時間数は最小限にとどめているため、これ以上の削減はできない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

旧町名を効果的に周知する方法を検討する。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

由来板の更新計画は、財政上、年度毎に 3 基更新するのが限界であることから、補助事業等の活用により、できるだけ短期間で更新を完了する必要がある。

由来板の老朽化が進行しており耐久性がある板への仕様を検討し、周知効果向上を図る必要がある。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

景観政策との関わりを検討する必要があると思います。